

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

○「地域に学び地域とともに歩む学校」

目標：学校像	地域に信頼され誇りとされる学校、進路実現を支援する学校
：生徒像	自律心に富み心豊かでたくましく、時代を創造し地域社会を支える人材
：生徒に育む力	進路実現する力（確かな学力、進路を見極めるキャリア意識、豊かな人間性・社会性）
教育活動の特徴	・普通科総合選択制のメリットを活用した教育活動（特色あるエリア活動の展開） ・地域との連携のもと、地域の社会資源を活用した教育活動

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) エリア改編に基づき、普通科総合選択制高校として、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育を推進する。

① エリア改編に基づき、エリアの内容、エリア指定科目等の詳細な内容の検討を進め、次年度からのスタートに備える。これにより生徒の満足度を高める。

*「学校教育自己診断」(生徒)での入学満足度「入学してよかった」(平成24年度79%)を3年後に90%に引き上げる。

(2) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし絶え間ない授業改善に取り組む。

① 授業力向上委員会を核に、公開授業、研究授業、相互参観、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。

*授業アンケートによる授業満足度(座学：平成24年度65%)を毎年引き上げ、3年後に80%をめざす。

② 学校経営推進費を活用しICT機器をとり入れた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。

*「学校教育自己診断」(教員)での「コンピュータ等のICT機器を授業などで活用している」(平成24年度37%)を3年後に倍増する。

2 進路指導の充実

(1) 学習指導と進路指導を連結させ、生徒の希望する進路の実現を支援する。

① 中期計画推進事業費を活用し整備した自習室を核に、生徒の自学自習の習慣の確立を図る。

*「学校教育自己診断」(生徒)での「家庭での予習・復習など学習時間を確保している」(平成24年度29%)を各学年とも前年度より引き上げる。

② 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。

*「学校教育自己診断」(生徒)での「学校は放課後や長期休業中の補習・講習を十分行っている」(平成24年度57%)を3年後に67%をめざす。

* 学力生活実態調査での「家庭学習の時間」(1・2年)(平成24年度は41%)を3年後に60%をめざす。

③ 3年間のすべての教育活動を通じたキャリア教育の推進方策の検討、実施。

*学校教育自己診断での進路指導満足度(平成24年度71%)を毎年引き上げ、3年後に80%をめざす。

3 生徒指導の充実

(1) 学校全体で生徒指導に取り組み、基本的な生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。

① あいさつ、身だしなみ、美化活動の改善・定着に向け、全教職員での取組みを図る。

*学校教育自己診断での「基本的習慣の確立に力を入れている」の肯定的回答(平成24年度61%)を毎年引き上げ、3年後に70%をめざす。

② 全教職員による遅刻指導を強化する。

*年間遅刻数を3年間で3割減をめざす。

4 地域と連携した安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。

*「学校教育自己診断」(生徒)の「授業や部活動などで地域の人々とかかわる機会がある」(平成24年度49%)を毎年引き上げ、3年後に60%をめざす。

(2) 特別活動や部活動を通じて、生徒の自主性や社会性を醸成する。

① 全ての特別活動に、生徒育成にかかる目的を明確に位置付け、生徒の主体的な行動を促す仕組みを構築する。

*学校教育自己診断の学校行事満足度(平成24年度72%)を毎年引き上げ、3年後に80%をめざす。

(3) 人権尊重の教育、心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性を育む。

① 「人権教育基本方針」などに基づき、人権教育を推進する。

*学校教育自己診断での学校の人権意識育成姿勢の肯定的回答率(平成24年度63%)を毎年引き上げ、3年後に70%をめざす。

(4) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、清掃活動への徹底を促す。

*学校教育自己診断で、学校の美化環境の肯定的回答率(平成24年度50%)を毎年引き上げ、3年後に60%をめざす。

(5) 学校の危機管理、安全確保について、教職員の意識の醸成をはかる。

(6) 教育相談体制の充実を図る。

5 学校経営・運営体制の強化

(1) 学校運営の機動性を高めるため、組織力の強化を図る。

① 学校運営の機動性を高めるため、運営委員会や将来構想戦略委員会の活性化を図る。

② 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。

③ 教職員に一体感を醸成し、組織間連携の円滑化を図るための仕掛けづくりを行う。

(2) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業の軽減化を図る。

(3) 開かれた学校づくりの推進

① 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、本校の教育活動の内容を積極的に情報発信する。(中学校・塾などへの訪問活動の充実等)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成25年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>総括</p> <p>昨年に比べ生徒編、教員編で高い評価になった。一方、保護者編は評価が下がった。学校での直接の当事者における評価が高い半面、保護者にその実態が伝わっていないことがうかがえる。今後、保護者への情報提供、関心を寄せてもらう手法につき検討していきたい。</p> <p>【生徒編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べ、27項目中26項目で上昇した。ほぼ全項目で過去最高の評価を得た。残り1項目も0.1Pの下降であり、誤差の範囲といえる。 ・比較可能な20項目中、4年連続上昇したのは12項目。特に <ul style="list-style-type: none"> ①「本校に入学してよかった」が毎年上昇しており、82.1%となった。 ・昨年度の1年生、今年度の2年生、いわゆる5期生の評価が高い。 ・顕著に上昇したのは <ul style="list-style-type: none"> ⑮「学校は奨学金制度について十分に説明し、その情報を知らせてくれる」51.1%→66.9%、11.8P上昇 ⑳「部活動に積極的に取り組んでいる」47.5%→55.3%、7.8P上昇 ㉑「教え方に工夫をしている先生が多く授業はわかりやすい」55.7%→63.0%、7.3P上昇 ㉒「みどり清朋の先生はお互いに協力しあっている」57.9%→64.4%、6.5P上昇 ・学年別にみたときの項目毎の特徴的なことは、 <ul style="list-style-type: none"> ③「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」1年が最も低く54.9%。2年が高く73.9%（5期生は昨年より高くなっている）。2年が高いのは今年度実施した海外修学旅行の取組み等の影響と考えられる。 ⑥「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」が昨年も今年も1年が突出して高い。情報の授業が1年のカリキュラムにあることが原因かもしれず、来年度は質問の表現を変更する必要があるかもしれない。 ⑧「授業で自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくある」が微増したものの29.3%。ただ今年の3年が少し高い（36.8%）のは、自由選択科目で発表の時間を取り入れた授業が多いことなどが一因かもしれぬ。 ⑨「放課後や長期休業中の補習・講習を十分行っている」が、2年が高く71.7%。 ⑩「家庭での予習・復習など学習時間を確保している」が、微増したものの30.7%。特に2年は21.1%と1年次（27.5%）より減少している。本校生徒に由来からみられる中だるみ傾向か。いかに学習に目的意識を持たせるかは今後の大きな課題。 ㉑「担任以外にも悩みなど気軽に相談できる先生がいる」は、微減ながらほぼ昨年並み。2・3年（55.3%、52.6%）に比べ1年が低く44.0%。 ㉒「部活動に積極的に取り組んでいる」1年が60.0%と高い。 ㉓「みどり清朋の先生はお互い協力し合っている」は57.9%から64.4%に6.5Pアップしたが、特に2年の数値が高く71.2%。 ㉔「教室・廊下の清掃がいきとどき、授業にふさわしい環境である」が49.8%から54.9%と5.1Pアップしたが、2年が高く（66.0%）、1年（48.7%）、3年（49.4%）が低い。 <p>【保護者編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率が全体では微減（49%→48%）。3年はやむを得ない面があるが、昨年度に比べ1年が低い（53%）。担任を通じて保護者との連絡を密にするなど、回収に工夫を凝らす必要がある。 ・上昇したのは <ul style="list-style-type: none"> ①「入学させてよかった」91.5%→93.1%。特に3年生が94.7%と高く、 	<p>第1回（H25・6・15）</p> <p>○「授業力の向上」について・・・授業見学を見終えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを使用していたり、グループワークをしていたり、生徒同士の話し合いが新鮮で良かった。 ・プロジェクターを利用している授業では資料の多さに驚いた。 ・どうすれば生徒が授業に参加するのか先生方も工夫されていた。生徒たちのことを考え、興味を引き出してくれているように思えた。 ・少人数授業で良く集中していたのが良かった。 ・みどり清朋の生徒は「善良・親切」というイメージがあるが、もう少し背中を押してやればもっと力を発揮すると思う。小高連携で見せてくれる生徒たちの姿は、頼もしくて自己肯定感や自尊感情が高まっているなど感心している。授業においては、子どもたちが授業の中でどれだけ活躍するかが小学校では大事だ。高校でも、もっと生徒たちを動かしてはどうか。少し先生のしゃべる量が多い気がする。その点昨年のパッケージ研修の授業はとて良かった。アクティブな授業を望みたい。ICTを使った授業では、資料の分量が多すぎたように思う。もう少し絞った方が生徒には理解しやすいのではないかと。また、授業のねらいをしっかりと板書することも大事だ。小学校では黒板一枚がその日の全てで、途中で消したりはしない。 ・野球部の生徒が立ち止まってあいさつをしてくれていることに驚いた。素晴らしい。また、みんなが授業をきっちり聞いているのも良い。しかし、ほとんどの授業が講義形式であったため、グループ学習などの工夫が大切だ。グループの人数は3～4人程度が適切でICTを使用したりすることも含めて、コミュニケーション能力の育成にもつながる。 ・全校の生の授業の様子を見ることができて良かった。学校が一体となって授業改革を進めていることが良く分かった。また府の事業にも応募し、校長が率先して環境づくりをしている。とても頼もしく感じている。ICTの活用にも板書以上の力が必要だ。生徒を受け身にさせない教材づくり、先生間の共有化が課題だ。生活実態調査の報告があったが、睡眠時間や携帯電話、アルバイトなどにかかる時間など問題も多い。家庭の経済状況もあり、難しいだろうが、生徒指導や進路指導でも生徒の可能性を引き出す余地はある。部活とアルバイトなど、複合的に分析する必要がある。 ・授業中に寝ている生徒が気になった。プリントを毎回配って提出させるなどの方法もある。ICT授業では、資料の多さもあるが、肝心な部分はゆっくり説明することが重要だ。また古典的な授業にも良い点がある。今回見せてもらった中にも、板書の工夫や文字の美しさ、構成方法が素晴らしい先生もいた。一方、ICTを導入しても人が変わると使われなくなるケースも多い。次につなげていくことも大切だ。教員が「持ち味」を活かして授業を行うことは難しいが、授業の質を上げる上で大事なことだと考えている。 ・ICTをいかに引き継いでいくか、年代によっては扱えない場合がある。40代の教員が少ないと聞いたが、この年代は授業への活用の仕方に長けている。若い人はすぐに使えるが授業でのノウハウがない。 ・書画カメラなどは据え置いているとよく使ってくれる。小学校でも児童の作ったノートを写しだして、活用したりしている。 ・教科書や地図にある図版を書画カメラで投影し、生徒にその部分を探せるなど工夫もできる。 <p>第2回（H25・10・9）</p> <p>1 授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートという形で生徒が授業評価をしたが、それに対して生徒の意識は変わってきたか。あるいは教員の思いが伝わり、生徒の顔に変化が表れたか。 ・メリットとデメリットがあるが、各教員が目標を設定し前向きに努力している点が良い。 ・教え方や好き嫌いでの評価になっていないか。教員として、人間としての多面的な魅力や尊敬できるかなど、授業以外の要素も評価して欲しい。このアンケートには、そういった部分が反映されていないのではないかと。 ・先生へのあこがれや尊敬という部分は大切だと思う。 ・中学校でも昨年度から取り組んでいるが、昨年は生徒と保護者を対象に行った。授業の良い教員は評価が高いが、人気投票のような側面もある。また、生徒の中にはいい加減に記入するものもいて、全体の2割から3割にのぼっている。厳しくて融通がきかない人はスコアが低い反面、生徒には厳しいが、生徒の意見を取り入れる

また昨年の3年生（87.5%）より高い。

- ㉔「授業参観や学校行事に参加したことがある」が54.5%→55.3%と微増。
 ㉕「学校のホームページをよく見る」が23.6%→25.9%と微増。2年は31.6%と3割を超えたが、1年は19.9%と2割に達さない。

・減少項目で顕著なのは、

- ⑮「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」が81.9%→66.2%と△15.7P。

- ⑯「先生は様々な問題を見逃さず対応してくれ、生徒の相談に親身になって応じてくれる」が77.3%→58.5%と△18.8P。両項目とも1年が低く3年が高い。

- ⑰「PTA活動が活発である」が72.9%→56.2%と△16.7P。

- ⑱「クラスやクラブは一人ひとりが尊重され、気軽に話せるような集団である」が82.2%→69.5%と△12.7P

・気になるのは

- ㉒「学校は教育情報について提供の努力をしている」が69.4%→65.6%と△3.8P。特に2年（5期生）の落ち込みが激しい。

・自由記述において、「わからない」の選択肢をほしいとの意見がいくつか寄せられた。一方、「コミュニケーションツールになりました」との声もあった。

・保護者への情報提供の工夫が今後の課題。

[教員編]

・回収率がようやく100%になった。

・全体としては昨年に比べ大幅に上昇した。28項目中18項目で上昇。

・上昇項目としては

- ⑥「学校は組織的に放課後や長期休業中の講習を十分行っている」が34.2%→66.1%、+31.9Pと倍増。

・また授業力に関し

- ③「ICT機器の活用」が36.6%→50.9%、+14.3P

- ④「双方向の対話型学習など指導方法の改善」が56.1%→71.2%、+15.1P

・教員間連携に関し

- ⑰「学校の教育活動について教職員で日常的に話し合っている」が58.5%→71.2%、+12.7P

- ⑱「教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」61.0%→79.6%、+18.6P

- ⑲「年間の学習指導計画について各教科でよく話し合っている」が58.5%→69.5%、+11.0P。

これらは本年度の重点目標だった授業力の改善への取組みが実感されたこと、及びそれを通じた教員間連携が高まったことを示すと言える。

・減少項目として気になるのは

- ⑤「学校では到達度の低い生徒への学び直し指導を全校的課題として行っている」が31.7%→30.5%

- ⑧「この学校では系統的なキャリア教育を行っている」が63.4%→59.3%

- ⑩「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員が理解している」が41.4%→37.3%

- ㉓「家庭への連絡をきめ細かく行っている」が78.1%→74.5%、△3.6P対策が必要。

*この質問には主語がないものがあつたり、網掛け部分がやけに強調される恐れがあり、質問文の見直しも検討する必要がある。

・相変わらず低いのが

- ⑳「学年・分掌の仕事は組織的に行われている」51.3%→49.2%、△2.1P
 ㉑「学年・分掌・委員会等の組織間の連携はうまくいっている」が29.3%→28.8%、△0.5P

底上げが求められる。今後は新体制による運営の中で強化していきたい。

ような教員のスコアは高い。また初任者は低い傾向が見られるが、こうしたことが全てではない。あくまでも「学びの育成」の視点からこのようなアンケートを取り入れているのであって、学力向上の指針の一つと考えている。

・小学校は保護者アンケートを実施している。担任は保護者と深い関係があるが、担任外の教員はそうでもないので無責任には評価できないとの声もある。アンケートはあくまでも、良い授業を作り上げるための指針と受け止めている。全国標準学力テストでの学力や、家庭状況、自己肯定感等80項目に達する学力状況調査などの結果も大いに参考にしている。携帯問題では、小学校では子どもが勝手に携帯を扱い、その結果睡眠不足が生じるなどの問題が提起されている。そうしたことの取り組みの一環で、本校では全校テーマを決めて課題の克服を目指している。今年は「書く力」を一つのテーマとして、全員でこうした問題を追求していく方法を取っている。みどり清朋高校の「授業観察シート」は参考にさせてもらいたい。

・アンケートの調査分析の中から、教員や子どもの力の高まりにつなげていく必要がある。各授業が多様な中、一律に見ていくことの限界や危険性もある。特に、スコアが高くなく、また低くもないいわゆる「中間層」の教員を一律に見ていくことは難しい。校長の評価、生徒の評価、教員相互の評価をバランス良く見ていくことが大切だ。授業満足度が高ければ高いほど良いのかということもある。むしろこの結果をどう生徒に返していくのか、集会や文書等で返していく方法もある。個々の教員が生徒に対して発信するメッセージがあれば良いと思う。また生徒が努力すべき目標を示すことが出来れば、お互い良いキャッチボールになる。

・質問項目の中にある予習・復習の大切さについては、家庭の問題等もあろう。また質問3の「授業が自分にとって適切かどうか」という内容は疑問に感じる。自分が尺度なのではなくて、あるべき姿を追求させることが大事だ。そのための工夫や改善の検討が必要なのではないか。自由選択科目に見られるように、不本意選択の授業もあろうが、どの教科も大切なのだということを生徒に言って欲しい。やはり基本は教員が生徒に向かう姿勢にある。起立礼や、チャイムと同時に授業を始めることはその大前提であるし、また教室の清掃も当然大切にしなければいけない。

・授業中に寝ている生徒が教員を評価している。まず生徒自身の姿勢を正す必要を感じる。

・先生の持ち味や尊敬される教員などといった部分が反映される工夫も欲しい。

・かつてと異なり、教員同士が情報交換する機会が近年は乏しい。もっと、互いに情報交換する努力が必要だ。

・学習環境が悪ければ生徒は伸びない。人の目を見て話さない、礼をしない教員に対して、生徒たちはどう思うか。

・自分の大学でも、起立・礼から始めている。教育は基本的なところが大切だ。

2 本校の教育活動その他について

・携帯やスマートフォンの問題が発生している中で、中学校では携帯の持ち込みは禁止しているが、所持率は6割にのぼる。持ち込んだ場合、預かった後で保護者に返却している。

・小学校でも5割以上持っている。親が持たすことが多いが、児童に自己管理させるのは無理である。

・ネット等による誹謗や中傷のトラブルはかつてからあった。ネットで他校生とつながり、泊まりに來たりSNSを利用して中学校同士のトラブルに至るケースもある。

・中学校では、自己肯定感が低い生徒が多いので、行事の際などに積極的に褒めることをしている。

・就職する際にも、きちんと挨拶できる習慣が身に付いている人は伸びる。付け焼刃ではだめだ。こうした点についてもきちんと指導して欲しい。

・挨拶等でも地域性がある。様々な課題を生徒に与えるよりも、「挨拶」「清掃」等課題を絞って指導するのも良いのではないかな。

第3回（H26・2・10）

・学校教育自己診断での保護者からの厳しめの評価については、保護者のあり方によっても受け取り方が違うと思われる。学校に興味を持っていれば、違った評価になるのではないかな。

・生徒の授業評価に関しては居心地が良ければ満足度が高いという傾向があるのではないかな。内容の充実とは別ものという気もする。内容を測る指標はないものかな。検討が必要である。

・授業評価は個人のレベルでの評価である。学校全体の授業力を上げることにどう結びつけるかという視点も大切だと思う。

・そもそも、授業アンケートについて「満足度」の評価は聞き方が難しいというかな、これで良いのかと思う。授業中よく寝ている生徒でも回答するのだから。

・授業評価は、アンケートだけでなく観察も含めて複合的に見なければならぬ。また、授業が良いというだけでなく、生徒の力を引き、出す部分や自学自習を引き出す指導なども評価の観点になる。

- ・騒がしい授業については一部の学年であっても拡大の恐れがあり、早めの対応が必要だ。
- ・教育の現場では、教員の経験の段階や勤務校の様子で、各人の問題意識や課題も変わって来る。ただ、何が良い授業か、原点に返って考えることは大切。一方でアンケートの結果など見ると2年生が高評価だということは興味深い。
- ・小中は多様な生徒を預かっている。また学年間での差も大きい。その差が出ないように、「みな池中の生徒だ」という意識付けを行っている。他に「ケータイ・スマホ」に関しては、本校では校内研修を実施している。教員間の共通理解が大切である。
- ・「ケータイ・スマホ」は小学校でも問題になっている。保護者とのやり取りの中で、互いの理解を深める取り組みをしている。
- ・学校・保護者が共通認識を持つと変わってゆく。
- ・来年度1年生は1クラス増で8クラスということだが、いろいろな状況の中で先生を育てるのも大切なことである。
- ・今回管理職から「教員への指導」の話が出るのは、誠実な態度だと思う。教員という仕事を選んだ限り、やらねばならないことはある。「(生徒への) しつけ」が必要ならしっかりすべき。これができないというのは、問題である。
- ・教員生活が長くなると、原点に戻るといふ葛藤も必要なのではないか。自分の経験から言うと、その気持ちになれない、(校長の) 指導が全くダメ、入らないというなら、現場を離れてもらうことも必要になる。
- ・民間では複数の人が多面的に評価をする。その結果、その人の待遇も異動のあり方もがらりと変わるというのが実情だ。
- ・「学校へ行くのが楽しい」という回答で、学年間でこんな差があるというのは「何か」を示している。現在の2年生が手本になるのではないか。
- ・「みどり清朋」のような学校は難しい。多様な教員がいる。ところが、生徒が「やさしい」ので問題が表面化しにくい。
- ・評価に関して言えば、良い数字が出ていると思うが、その中には大きく上がるものもあれば、現状を維持するという指標もあるのではないか。常に全ての数字が向上し続けるということがあるのだろうか。また、1年の間の時期ごとに達成度がわかるものにしてみてはどうか。
- ・クラブを活性化し、「野生力」といった勉学では身につかない生きる力を育ててほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成 (授業力の向上)	<p>(1) 普通科総合選択制高校としての特色ある教育課程の編成</p> <p>ア P T の編成とエリア選択の課題等の抽出・対応策の検討</p> <p>(2) 新学習指導要領を踏まえた授業改善の取組み</p> <p>イ 教員の授業力の向上</p> <p>ウ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成</p> <p>エ 学校経営推進費を活用したICT機器の導入による授業改革</p>	<p>ア 将来構想戦略委員会の活性化 (首席を中心に5名程度のPTを編成)</p> <p>①今後のみどり清朋高の在り方について エリアの諸課題(自由選択科目の決定方法の明確化等)の検討、医療・看護エリアの運営、将来構想(普通科専門コース等)の検討</p> <p>②校内組織の活性化 職員会議の運営方法の見直し・各種委員会の再編</p> <p>イ 授業力向上の取組 ・研究授業推進月間の設定、相互授業参観の実施(年間2回、6・11月ごろ) ・小・中学校との授業交流 ・授業評価アンケート(年2回)、授業評価に基づく校内研修会の実施(評価結果は生徒に還元し、双方向の授業改善に活用) ・実習・体験学習の推進(校外も含む) ・授業における学校外の人材の積極的活用(教科、エリア、総合学習) ・「使える英語プロジェクト」等を活用した、生徒の英語学習への動機づけや英語力の強化 英語合宿・English Lounge・短期留学等</p> <p>・勉強合宿の実施 ・ICT活用研究(WG設置、他校視察、活用授業) ・学力生活実態調査を活用した学力分析に伴う学習指導計画の策定</p> <p>ウ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成 ・新任・若手。ミドル養成講座等の開催 ・自主的な校内研究会の立ち上げ ・ミドルリーダーによる伝達講習会の開催</p> <p>エ ICT機器をとり入れた授業展開</p>	<p>ア、イ ・学校教育自己診断(生徒)での入学満足度「入学してよかった」H24年度79%を引き上げる。H25年度は83%。</p> <p>・学校教育自己診断「エリアや授業は役だつ」H24年度71%を引き上げる。H25年度は74%。</p> <p>・授業アンケートの授業満足度(座学)H24年度65%を引き上げる。H25年度は70%。</p> <p>ウ ・各講座、年10回</p> <p>エ ・学校教育自己診断(教員)コンピュータ等のICT機器を活用している」H24年度37%を引き上げる。H25年度は50%。</p>	<p>ア 医療・看護エリアを立ち上げ、6期生の2年次からのスタートに備えた。普総選の再編整備にかかる見直しについては、9月の府教委の方針決定に伴い議論が中断した。またICT機器の活用による職員会議のペーパーレス化等効率化を図った。</p> <p>・自己診断(生徒)満足度「入学してよかった」79%→82.1% (○) ・自己診断「エリアや授業は役だつ」71%→76.4% (◎)</p> <p>イ 授業力の向上については、府教育センターのパッケージ研修の支援を受け、また改善策を講じながら学校全体の取組みとして授業改善に努め、実績をあげた。また学力生活実態調査の導入を図り個々の生徒の学力分析に基づく指導に着手し、ライオンズクラブの協力による海外派遣事業を実現した。</p> <p>・授業アンケートの授業満足度(座学)65%→69.7% (◎)</p> <p>ウ ・教員研修については高等学校課の支援を受けながら、「分掌の見直し」等実践的なテーマ設定を行い、提言内容を次年度の学校運営に反映することができた。また核となるミドル・若手教員を5名次年度の分掌長に抜擢した。</p> <p>・回数は新任16回、若手14回、ミドル8回 (◎)</p> <p>エ ICT機器の取り入れは学校経営推進費を獲得し導入を図ったが導入時期が2学期末となり運用は3学期からとなった。だが準備段階から教員の意識が高まり、既存の機器を活用した取り組みも広がった。</p> <p>・自己診断(教員)「ICT機器を活用している」37%→51% (◎)</p>
2 進路指導の充実	<p>(1) 進路実現の支援</p> <p>ア 組織的な補習・講習体制の確立</p> <p>イ 3学年と進路指導部の連携強化による進路意識・キャリア意識の向上</p>	<p>ア 校内講習体制の組織化 ・放課後や長期休業中の講習などの充実 ・土曜日の講習実施の推進(定期考査時期以外の実施推進)</p> <p>イ 進路指導部・学年団による3年間を見通した進路計画の作成と実施 (総合学習・LHRを活用した「進路の時間」の充実) ・職業観の育成などをめざした職業適性診断テストの実施 ・1年次からの適切な進路情報の提供により、進学や就職に対する目的意識・目標設定を促す指導(進路指導部と1年学年団) ・大学見学会の実施、オープンキャンパスなどへの積極的参加を通して、進路意識を高める。 ・高大連携の推進、卒業生との懇談会や外部講師を招いての進路説明会などによる進路意識の向上 ・進路指導部と3年学年団との進路検討会の実施(1学期) ・進路希望調査等の資料を活用した個人面談と三者面談、目標設定と進路実現の支援 ・管理職を含めた志望校検討会議 ・保護者向け進路講演会の開催 ・卒業生の模試データ等の整理収集 ・教員の進路指導スキルアップ研修の実施</p>	<p>ア ・学校教育自己診断(生徒)での進路指導満足度H24年度71%を引き上げる。H25年度は75%。</p> <p>イ ・学校教育自己診断(生徒)「学校は補習講習を十分行っている」57.3%を引き上げる。H25年度60%。</p> <p>・関西8私大への進学希望者の合格率を上げる。H24年10%をH25年15%。 ・自習室の活用件数の増加H24年344件をH25年+10% ・学力生活実態調査(1・2年)「家庭学習の時間の確保」H24年41%をH25年50%。</p>	<p>ア 各学年を中心に放課後や長期休暇中、土曜日の講習を充実させた。具体的には夏休み・冬休みの欠点者講習や、トップ層の引き上げのための早朝講習(英数国)を行った。</p> <p>・自己診断(生徒)進路指導満足度71%→74.9% (◎) ・自己診断(生徒)「学校は補習講習を十分行っている」57.3%→60.5% (◎)</p> <p>イ 3年間を見通した進路計画を作成するとともに、進学や就職に対する目的意識を促す指導を行った。またトップ層の勉強合宿を実施し、センター試験・一般入試まで頑張る力を引き上げた。</p> <p>・関西8私大への進学希望者の合格率を上げる。10%→未確定。 ・自習室の活用件数の増加:344件→497件(12月現在) (◎) ・学力生活実態調査(1・2年)「家庭学習の時間の確保」41%→46.1% (△)</p>
3 生徒指導の充実	<p>(1) 全校体制による基本的な生活習慣の改善・定着</p> <p>ア あいさつの定着・身だしなみの強化</p> <p>イ 遅刻指導の強化</p> <p>ウ 部活動の活性化</p>	<p>ア 全教職員による生徒指導体制の確立 (職員会議や学年会議などにおいて、生徒指導の課題について共通認識を図り、規範意識を高め、望ましい生活習慣を確立させるため、全校体制で生徒指導にあたる) ・「あいさつ運動」の展開(生徒会や生活委員を中心に) ・身だしなみ(服装・言葉づかい)や自転車マナー講習会等の開催・充実</p> <p>イ 遅刻指導の強化 (特に生活習慣の乱れによる遅刻の多い生徒に対しては、保護者との連携を強化し指導)</p> <p>ウ 部活動の活性化 ・高大連携を活用した外部指導者の活用 ・中学生への部活動の見学会や交流試合の設定(みどりカップ等)</p>	<p>ア イ ・遅刻数前年度比1割減</p> <p>ウ ・学校教育自己診断(生徒)での「部活動への取組み」H24年度48%を引き上げる。H25年度は52%。</p>	<p>ア 生徒自身の基本的な生活習慣の改善意識については昨年度より上昇したものの目標に達しなかった。ただ懲戒件数は減少した(24年度15件→14件)。その内容は、暴力行為・カンニングからSNSにまつわるものや悪ふざけなど若干質が変容した。</p> <p>・自己診断(生徒)「基本的習慣の確立」61%→62.7% (○)</p> <p>イ 遅刻数については本チャイム前のメロディチャイムの導入により減少した。</p> <p>・遅刻数(12月末現在) 3143件(前年同時期3733件)</p> <p>ウ 部活動加入率は上昇した。また中学生を対象とした大会を開催し(サッカー部、バスケット部)、中学生へのアピールを行った。</p> <p>・自己診断(生徒)「部活動への取組み」48%→55.3% (◎)</p>

<p>4 地域に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動の展開</p> <p>ア 地域交流・連携の推進</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進</p> <p>イ ホームページの充実</p> <p>ウ 中学校等へのPR</p>	<p>ア 地域の学校や福祉施設をはじめとする各機関・団体などとの連携の推進 (幼稚園・小学校・中学校への出前授業、生徒の実習体験、部活動での小・中学生との交流、自治会事業への参加、地域の「地域教育協議会(すこやかネット)」への参画・協力など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大阪福祉協議会との連携・近隣大学との地域連携 ・クラブ活動などを中心とした「出かける」地域連携 <p>イ 積極的な情報発信 (本校の教育活動の内容について、学校ホームページの充実。校長ブログ以外も毎週複数回の更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールマガジン・HPの活用 ・保護者・地域への授業見学会の活用 <p>ウ 学校説明会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による中学校への訪問活動の充実 ・出張模擬授業の活用 ・中学生への授業公開 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)での「授業や部活などでの地域とのかかわり」H24年度49%を引き上げる。H25は54%。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日アクセス数の増加 H24: 145件を2割増。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張模擬授業H24年度延べ7回をH25年度は倍増。 	<p>ア</p> <p>幼少中との交流事業はますます充実を重ねた。また和太鼓同好会は地域の夏祭りや、ライオンズクラブとの交流の機会を得るなど、一層の活躍を行った。地域音楽祭では吹奏楽部、清朋太鼓、茶道部に加え、放送部が司会進行に加わるなど、一層の拡大を図った。さらに使える英語プロジェクトを活用した取り組みにおいては、地域のどら焼きづくりの名人とタイアップした取り組みを行った。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断(生徒)「授業や部活などでの地域とのかかわり」49%→54.2%(◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長だよりのほか記事内容の更新に努め、1日アクセス数は大幅に増加した。ただ保護者の見る機会があまり上昇しておらず、今後の検討課題である。 ・アクセス数: 145件→208件(43%増)(◎) <p>ウ</p> <p>出張模擬授業は夏8回、冬5回となり概ね目標を達成した。(◎)</p>
--------------------------------	--	--	--	---